

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【西原中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】全国および市の学力学習状況調査では、多くの教科で市平均をやや下回っており、特に概念的な理解や定額についての理解度が低い。 【指導上の課題】教員による説明や教科書の言葉をなぞるなど、表面的な指導で終わってしまうケースが多い。	⇒ 授業での説明のほかにも、全校でスタディサプリに取り組み時間の設定や、宿題配信など、基礎定着のための機会を確保する。【スタディサプリの時間：年間15回】 基礎の確実な定着のため、数学とG・Sの授業内で単元テストやスプリングコンテストなどの基礎テストを行う。【単元テスト：4～5回、スプリングコンテスト：10回】
思考・判断・表現	【学習上の課題】知識・技能が不十分であるため、思考が深まらず、できる生徒中心で議論が進んでしまうことがある。また、記述での無回答率が高かった。 【指導上の課題】授業中に行うY(やったこと)W(わかったこと)T(次にやること)による授業の振り返りを先送りしたりや事後にまとめて書かせたりするなど、時間確保が不十分なケースが多かった。	⇒ ICTを利用することで、一人ひとりが意見を出すハードルを下げる。グロウログやVWTでの家庭学習および授業振り返りを継続し、書くことを習慣づけさせる。基礎部分をスタディサプリなどのデジタルドリルでも行うことで時間の使い方を工夫し、授業振り返りの時間を確保する。【R6市学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」領域の平均正答率の向上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、言語文化に関する事項で前年度の全国平均-6.3ptsから、+1.1ptsと大きく向上した。しかし、言葉の特徴や使い方に係る事項・情報の扱い方に関する事項は、若干全国平均を下回り、前年度とほぼ同様の結果となった。数学では、すべての領域で県・全国の平均を上回り、特にデータの活用に関する設問(問題番号5、(1)、7(3))では、高い正答率でかつ、無回答率も低くなった。前年度比では、昨年度の全国平均-0.6ptsから、+8.6ptsとなった。知識・技能領域の設問では、国語・数学ともに、無回答率は県・全国の平均と比べて低く、わからなくても何とか答を見つけようとする姿勢が身についてきたと考えられる。
思考・判断・表現	国語では、読むことの領域で前年度の全国平均-2.1ptsから、+2.7ptsと向上したが、書くことについては、全国平均との差が広がり、課題がみられる。特に、記述式で満たすべき2つの条件のうち、片方の条件のみを満たす形の誤答が多く、無回答率も高いことから、長文記述回答が苦手であることが伺える。数学では、県・全国の平均を3～4pts上回った。記述問題でも、正答率が県・全国の平均と比べて下落することがなかったが、問題番号6(2)と9(1)を比較すると、証明問題等で長文の記述をするときに、無回答率が上がっている傾向が読み取れる。記述する力がついてきた生徒がいるのと同時に、苦手意識が払しょくできない生徒も少なくないと考えられる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	多くの教科でスタディサプリを夏季休業や週末等の宿題に活用し、基礎の反復練習を行うことで、生徒が定期的に学習に取り組む習慣が定着してきた。各教科の基礎テストは授業計画に基づいて確実にいき、生徒は意欲をもって取り組むことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	全教科で授業振り返りの活動を授業の最後に取り入れる共通理解を図り、時間を確保することで、文章記述への抵抗が少なくなってきた。感じたことや自分の考えをより分りやすく表現するための語彙力の向上や、対話の中での理解の深化が今後の課題と言える。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)